様式第３号

論　文　要　旨

氏　名	梶田　美香
タイトル （日英併記）	Association between sensory processing and dental fear among female undergraduates in Japan 本邦の女子大学生における感覚処理と歯科恐怖の関連

論文の要旨（日本語で記載）

歯科治療に関する恐怖感（dental fear）は歯科治療の回避を引き起こし，口腔内環境を悪化させ，口腔内 quality of life（QOL)の低下につながる重要な問題である．日本人の約 40%は歯科治療に高い恐怖を抱くと報告される．歯科恐怖形成の原因は複雑で，苦痛な歯科治療経験などの外的因子と，うつ病やパニック障害などの内的因子が報告される．

歯科恐怖を持つ患者はデンタルライトの光や，タービンの振動，バキュームの音などの痛みを伴わない刺激にも過敏に反応ことから，歯科治療時の光や音の刺激は患者に不快な感情を引き起こさせる可能性があると考えた．個人の刺激に対する反応性の違いは感覚処理パターンの違いに由来する．感覚処理（Sensory processing）は「入力された感覚情報を統合し状況に応じて調整する能力」と定義され，遺伝的要因と環境要因によって影響を受ける．ダンのモデルによると感覚処理は神経学的閾値（高い，低い）と行動パターンの違い（能動的もしくは受動的）から「感覚過敏」「感覚回避」「低登録」「感覚探求」４つのパターンに分類される．感覚処理パターンの違いと歯科恐怖の関わりは未だ検討されていない．

本研究の目的は女子大学生において感覚処理パターンの違いが歯科恐怖と関連するか他のリスク因子の影響を除外して検討し，さらに共分散構造分析を用いて感覚処理を含む歯科恐怖形成モデルを構築することである．

北九州市内の女子大学生 334 名を対象に質問紙調査を行った．歯科恐怖は Dental Fear Survey を用いて，感覚処理はダンのモデルに基づいた青年感覚プロファイルを用いて評価した．感覚処理と歯科治療に関する負の経験，心理的因子が歯科恐怖形成に直接関連し，感覚処理は他の潜在因子と相関するという仮説をもとに共分散構造分析を行った．

有意でない変数を除外して得られた改変モデルは，良い適合度を示した（CFI = 0.990, RMSEA = 0.018)．「感覚過敏」「感覚回避」「低登録」のパターンと負の経験が歯科恐怖に有意に関連していた（β = 0.35, $p < 0.001$; β = 0.39, $p < 0.001$)．感覚探求を除く３つの感覚処理パターンは心理的因子と負の経験と正の相関が見られた($r = 0.56$, $p < 0.001$; $r = 0.35$, $p < 0.001$)．

以上より感覚探求を除く感覚処理パターンは女子学生において歯科恐怖と関連することを示した．偏った感覚処理傾向は内的因子，外的因子と相互作用しながら歯科恐怖を形成し，歯科恐怖症の根源的な素因である可能性が示唆された．個人の感覚処理パターンの違いは歯科恐怖症患者に対する支援のターゲットとなる可能性がある．歯科恐怖症患者の感覚処理パターンの違いに基づいた有効な支援法を確立するため，さらなる調査が必要である．